



「172のころ」

進級して1か月経とうとしていた時。いつもは元気いっぱい女の子がお絵描きをしていた手を止めて、何かを考えこんでいる様子。「どうしたの？」と声を掛けると「Kちゃん新しい保育園楽しんでいるかなあ？泣いていないかなあ？新しいお友だちできたかなあ？って考えてたの」と答えたSさん。「きっと大丈夫だよ！新しいお友だちと楽しく遊んでいると思うよ」と伝えるとSさんは「そうだね！Kちゃんなら大丈夫だね。新しいお友だちも出来たよね」と笑顔になりました。3月に転園したKさんのことを考えていたSさんの人を思いやる心の育ちに心が温かくなりました。

足元の地面の下には、目に見えている枝よりも、もっと大きく広がっている根っこがあります。

「背が伸びたね」とか、「出来るようになったね」など目に見える形での成長と同時に、こどもの内側では着実に心の根っこが育っているんですね。

心がのびのびとしていることで、豊かな感性や表現力、自由な発想が発揮されます。心がしっかりと育つと、自分の力でどっしりと立つことのできる土台ができます。

だから、目には見えない「根っこ」のことも忘れず、こどもたちの心の育ちを、そばで耳を澄まし、感じ、驚き、感動しながら一緒に成長していきたいと思えます。

3月に送り出したさくらぐみさんたちも元気になっているかな？卒園児や転園した子どもたちがいつでも帰って来れる居場所でありたいと思えます。





「土を運ぶ」一つの活動力の中に、選りばい、見通しを持って半ばりする。最後まで責任を持つ... わずか子歳の子どもたちですが、自ら考え行動しようとする、沢山の育ちがありました。困難性と併せて、日時にどう行動するのか。一つ一つは、出来事ですが、子どもたちは日常の遊びの中で、そんな小さな糸重を積み重ねています。あきらめない、人の力を借りる、イセの方法を考へる... どれも生きる力そのものです。日常の中にかくれている大きな力につながるイ年馬矢に、一つでも多く出会ってほしいと願っています。

先日、年長さんの保護者様から「わが子の言葉が変わった。」というお話を聞きました。以前は聞かれなかった「これってどうやって作るの?」という問いが増えたとのこと。それを聞いた時、私は笑みがこぼれ、思わず「やった!」と声が出そうになりました。なぜなら、「?」を持つ子ども、自分だけの答えを持つ子どもを育てたいというのが私たちの夢の一つだからです。

私たちは、日々の教育・保育を種蒔きだと考えています。愛情の種、優しさの種、受容の種、サイエンスの種、アートの種、食の種、探求の種、本物との出会いの種。色とりどりの種が蒔かれた幼少期という肥沃な大地。どの種がどんな芽吹きを迎え、樹木になり、花を咲かせ、実をつけるのでしょうか。

もしかしたら最後まで芽吹かない種があるかもしれません。しかし、お子様の胸の深く静かな場所には、芽吹きを迎えなかった種が大切に置かれる場所があって、いつの日か自分の大切な人に渡すことができるかも知れない。そう考えると、私たちは種を蒔かずにはられないのです。

さらにもう一つ、種の芽吹きに大切なこと。それは、大好きなお家の方が傍で光や温かな土となり、楽しみに待ってくれること。

「親が子どもの心に情熱を残してあげることができたら、それは最高の形見になるだろう。」
トーマス・エジソン

